

## なぎ倒された Jaba'a のオリーブの木

日本をはじめ、世界から贈られたオリーブの木が根こそぎに

イスラエル占領軍による、パレスチナ西岸各地のオリーブ園の破壊行為が依然として続いています。ベツレヘム近郊の Jaba'a の農家、イザット・アブ・ラティファさんは、一連の事件の中でも最近の被害者で、2011年2月22日、イスラエル占領軍らによってオリーブの木を台無しにされました。



枯らされたオリーブの根 写真：JAI

軍と関係者は22日の朝7時ごろ、イスラエルがパレスチナ西岸地区内に建設したイスラエル専用バイパスイス367号線に隣接するイザットさんの畑にやって来るなり、電気のこぎりで木をなぎ倒し除草剤で根まで徹底的に枯らしていきましました。イザットさんがこのことを聞きつけ急いで畑に到着した時には、イスラエル軍部隊の指示のもと、すでに150本ほどのオリーブの木が伐採されて山積みになっていました。軍と関係者は、イスラエル領内に生えているオリーブの木を引き抜いただけだとイザットさんに説明しましたが、その畑は間違いなくパレスチナ西岸 Jaba'a 地区にあり、地区の人々の住宅地もすぐそばのロケーションです。イザットさんはイスラエル部隊の指揮官に、畑の所有権の証明書を示しました。

山積みされたオリーブの木 写真：JAI

「オリーブの木が切られるのを見るのは、まるで自分の心臓がえぐり取られるような思いだったよ。毎年、世話できる限りたくさんのお木を植えて来たというのに、彼らは今いきなりやって来て一瞬のうちにすべてを壊して行ったんだ。オリーブの木は神聖なものだよ。どんな信仰だって宗教だって、オリーブの命を奪う行為を善しとはしないはずだ。こんな方法でオリーブを殺してしまう人の心が信じられないよ」40年来オリーブを育ててきたイザットさんは、JAI のメンバーにこう語りました。自分自身で、そして子・孫へと植えてきた、2歳から40歳のオリーブの木々が根こそぎにされた事実の前に、イザットさんは途方もない悲しみに打たれています。さらに、イスラエル部隊指揮官の脅しの一言で、イザットさんの怒りは高まりました。指揮官は、もしイザットさんが山積みのオリーブの木を直ちに片づけないなら、残りの木もすべて切り倒すぞ、と言うのです。



JAI のメンバーが翌23日に現場に行くと、切り倒されたオリーブの幹や枝はイザットさん宅前に高々と積まれ、でこぼこに荒らされた畑には切り株がむき出しになっていました。後を絶たないこのようなイスラエルの行為は、街道沿いに針葉樹を植える政策によるものと思われ、畑に所有者がいることを知りながら、その所有権の確認を故意に怠っているのです。損害賠償請求と、イスラエルの各省庁への申し立ての準備をしていますが、イザットさんの心傷と喪失は回復されることはありません。しかし、年老いたイザットさんは決してあきらめず、畑に新たなオリーブの木を可能な限り早く植え、受け継がれてきたオリーブの遺産と、大地と自分(人間)とのつながりを回復させることを心に決めています。イザットさんの前向きな姿勢は、彼を支える JAI のメンバーに勇気を与えるものでした。リソースや役務提供など、JAI の活動を支援する国際社会の協力を得ながらイザットさんを支援し、イスラエル人入植者や占領軍の破壊行為からオリーブ畑を守っていきます。

このような損害は、イザットさんのオリーブ畑に留まりませんでした。イスラエル軍部隊と関係者は続けて、モハマド・アフメド・アブ・スベハさんの 120 本のオリーブの木も根こそぎにしました。モハマドさんはちょうど外出中で、戻った時には手遅れでした。モハマドさんの 120 本のオリーブの木は、JAI「オリーブの木キャンペーン」第 7 期・第 8 期に、日本・オランダ・ノルウェー・英国・米国の寄付者により贈られたものでした。

#### 補足:

イザットさん、モハマドさんとも、JAI「オリーブの木キャンペーン」のメンバーです。モハマドさんはオリーブの苗木提供を受け、イザットさんは農業者としてのこれまでの素晴らしい功績により、他の農家のお手本役を担っています。3 年前も、イスラエル軍とイスラエル水道局関係者がイザットさんの畑に来て、パレスチナの水源からイスラエルへ水を引く<sup>1</sup>ために、イザットさんの畑の一部で水道管工事を強行しました。この工事でイザットさんは水の確保ができなくなり、工事で荒らされたままの畑を手放さざるを得なくなりました。今でもどうにか畑を元に戻すよう努力しています。方法は異なれ、イザットさんは似たような損害を今回も受けました。3 年前は水道工事、今回はオリーブの木を抜いて針葉樹を植えるという、イスラエル当局者の身勝手な決断によるものです。<sup>2</sup>

#### 行動を起こそう:

1. 在イスラエル日本大使に手紙 (Fax, Email) を書き、被害を受けたパレスチナの農家訪問を促しましょう。JAI「オリーブの木キャンペーン」を通せば、被害農家を紹介できることも伝えてください。

- 在イスラエル日本大使 竹内春久 様

The Museum Tower  
19<sup>th</sup> and 20<sup>th</sup> Floor, 4 Berkowitz Street,  
Tel-Aviv 64238, Israel  
E-メール: [ryouji@tl.mofa.go.jp](mailto:ryouji@tl.mofa.go.jp) Fax: +972 3-6910516

- JAI「オリーブの木キャンペーン」: E-メール [olivetree@jai-pal.org](mailto:olivetree@jai-pal.org) Fax: + 970 2 2774540

手紙例:

在イスラエル日本大使 竹内春久 様

イスラエル政府・軍関係者らが、パレスチナ西岸地区のオリーブ畑の破壊・接収行為を繰り返していることが、このたび JAI-Joint Advocacy Initiative(\*)の調査により明らかになりました。最近では、2 月 22 日に日本をはじめ、オランダ・ノルウェー・英国・米国の市民の寄付によりパレスチナ農家へ贈られた木を含む約 300 本のオリーブの木がイスラエル軍の独断で伐採され、世界の寄付者は失望し怒り、オリーブ栽培で生計を立てているパレスチナ農家は壊滅的な打撃を受けています。

この事件は氷山の一角にすぎず、イスラエル政府および軍が日常におこなっている、パレスチナ人の農地や家屋の破壊と接収は、パレスチナ西岸地区の実行支配を進めるイスラエル政府の戦略と言われています。

事実確認のために、パレスチナの被害農家を訪問して下さるようお願いいたします。

\* JAI とは、東エルサレム YMCA とパレスチナ YWCA が協働で運営しているグループで、オリーブの木の寄贈や農業支援などにより、パレスチナ農家の経済的自立や自然環境保護を促進しています。YWCA および YMCA は 100 年以上の歴史を持つ国際 NGO で日本にも事務所があり、社会的信用のある団体です。JAI を通して、被害農家の紹介をいたします。(JAI [olivetree@jai-pal.org](mailto:olivetree@jai-pal.org) Fax: + 970 2 2774540 )

お名前:

日付:

<sup>1</sup> パレスチナ西岸地区内にイスラエル政府が強行建設しているイスラエルの入植地は、見晴らしのよい高台に造られるため、水の獲得が必須となる。水道・道路などのインフラ整備をパレスチナ住民に無断で強行しており、先に登場したバイパスのように、イスラエル入植者専用道路も数多い。水に関しては水源そのものを確保してしまうので、パレスチナ農業に多大な損害を与えている。

<sup>2</sup> ニュースなどでは、イスラエル軍による攻撃や入植地建設のことがことさら取り上げられるが、このような不合理な政策を以って、個人の日々の生活の中で、個人所有の土地の実行支配をイスラエル政府が進めている実態がある。

2. 日本のイスラエル大使に手紙 (Fax, Email) を送ったり、あるいは新聞への投稿など公的手段を通して、パレスチナ人農家に起こっている現状を伝え、なぜこのような行為がなされるのかの説明を求め、損害に対する責任が公正に果たされるよう追及してください。

- 駐日イスラエル特命全権大使 ニシム・ベンシトリット様

〒102-0084 東京都千代田区二番町3

Email: [information@tokyo.mfa.gov.il](mailto:information@tokyo.mfa.gov.il)

FAX :03-3264-0791

手紙例:

Dear Ambassador Nissim Ben-Shitrit,

I have heard on the news about the series of destructions and the requisitioning of farm lands in the West Bank of the Occupied Palestinian Territories by Israelis and its military. In February, nearly 300 olive trees were forcefully cut down and about 50% of them were the trees gifted from international community including Japan, Netherlands, Norway, the UK and the USA.

As a member of the international community, I do not understand why such brutal action and violation of environment, farmers' rights of economy and their ownership of the land have been continuing.

I request Ambassador Nissim Ben-Shitrit sincere investigation on the series of violations against the Palestinian farmers conducted by Israeli occupied forces and request you to bring this serious issue to the government, which holds responsibility for the action of the occupied forces, to recover and return the farmland to the Palestinian farmers and compensate the loss of our olive trees.

Yours sincerely,

駐日イスラエル特命全権大使 ニシム・ベンシトリット様

イスラエル政府・軍関係者らが、パレスチナ西岸地区の農地を破壊し接収していることを知りました。

2月には、約300本のオリーブの木が強制的に伐採され、その約半数は日本、オランダ、ノルウェー、イギリス、アメリカなど世界中の市民により贈られたものでした。国際社会の一員として、私はこのような暴力的な行為と、環境破壊、パレスチナ農家の経済的自立と土地所有の権利を脅かす行為が続いていることが信じられません。

責任あるイスラエル政府に対し、これら一連の事件の誠実な調査実施と、農地の現状回復およびパレスチナ人農家への返還、そして私たちのオリーブの木の損害の賠償を求めます。

Name: \_\_\_\_\_ Date: \_\_\_\_\_

3. 被害を受けた農業者へ手紙とエールを送ってください。そして、一人ではないこと、世界に仲間がいるということ伝えてください。

- お手紙は JAI を通して: [olivetree@jai-pal.org](mailto:olivetree@jai-pal.org) Fax: + 970 2 2774540

手紙例:

Dear Farmers,

Thank you always for looking after our olive trees with your love and care.

I have heard from JAI about the loss of the olive trees and destruction of your farmland. I share with you the pain you feel as I am, too, a parent of the olive trees.

Please remember that I am and the international community is always here with you. Our individual action becomes a collective power and it brings justice and peace on Palestine. Until then, we never give up.

Name: \_\_\_\_\_ Date: \_\_\_\_\_

オリーブ農家の皆様

オリーブの木を愛情をもって大切に育てて下さり感謝しています。 JAI を通して、オリーブの木が根こそぎにされたこと、農地が破壊されたことを知りました。 オリーブの木が育つのを見守る者として、私も農家の皆様と同じように心を痛めています。 私たち、世界の仲間が農家の皆様のことを思っていることを忘れないでください。 私たち一人一人の力は小さなものですが、皆の力が集まって、必ずパレスチナに平和と正義が実現します。それまで、私たちも皆様と一緒に、粘り強く平和を求めていきます。

以下の一文に、日本語のメッセージを添えて送られても喜ばれます。(日本語の意味が分からなくても、遠く日本から応援している思いが伝わります)

「I am here with you always. 」(あなたは一人ぼっちじゃありません。私が応援しています。)

4. あなたの地域の新聞、ラジオやテレビ放送局へ、この事実を投稿して知らせてください。そして、知られざる事実に光を当ててください。
5. オリーブの木を一本でも多く植えていきましょう。あなたの周りの人たちにも参加を呼びかけ、畑搾取の被害を受けているノリスクにある農家と畑を粘り強く応援していきましょう。
  - 「オリーブの木キャンペーン」の情報は、日本 YWCA までお気軽にお問い合わせください。  
[office-japan@ywca.or.jp](mailto:office-japan@ywca.or.jp) Tel: 03-3292-6121 Fax: 03-3292-6122 [www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)

(翻訳 日本 YWCA)

(さらに詳しい情報・その他 JAI の活動は <http://www.jai-pal.org/content.php?page=1059>)

## [Olive Trees destroyed in Jaba'a](#)

The random destruction of olive groves by the Israeli Occupation Forces in the West Bank continues. Last Tuesday, February 22nd 2011 Izzat Abu latifa, a farmer from [Jab'a](#) near Bethlehem was among the latest group of Palestinian farmers to suffer the loss of olive trees destroyed by the Israelis.

Around 7am, the Israelis came to the field adjacent to the Israeli [bypass road](#) 367. They started cutting down the trees with chainsaws and then poisoned the roots. When Izzat was told that Israelis were on his land, he hurried to the scene to find nearly 150 olive trees cut down and piled up under the supervision of the military contingent. They told him that the trees were being uprooted because they were planted on Israeli state land. However the field is located just outside of the residential area of Jab'a and it is in the Occupied West Bank and not in Israel. Izzat proved his ownership by showing the Israeli commander his land title.

Izzat told members of the Joint Advocacy Initiative "when I saw them cutting down the trees I felt as if my heart was being uprooted from between my lungs" He added that he had been growing olives on his land for 40 years. "I planted every year as many trees as I could manage and now they come to destroy what I have been working on. Olive trees are holy; what faith, what religion allows this to happen. How does any human being have the heart to kill trees like this"

Izzat was evidently grief-stricken at the loss of the trees which were between 40 and 2 years old and planted by him, his children and grand children. The outrage was made worse by threats from the Israeli commander that if Izzat didn't remove the cut-down trees from the field immediately the Israelis would destroy his remaining trees.

When JAI members attended the scene on Wednesday the trunks and branches were stacked in front of his house in the village with most of the stumps still visible across the terraced fields. It is believed the Israeli actions were motivated in pursuit of the policy to plant pine trees along road corridors and they had been deliberately negligent in not checking the ownership of the land.

A claim for damages will now be made as well as complaints to the various authorities although Izzat's true loss and the injury he feels can never be made good. He is not a young man, yet despite this he is determined to replant the fields as soon as he can to ensure his link with the land and its olive heritage is maintained.

His spirit is inspirational to JAI members who will endeavour to help him with resources and labour from the international community who support the organization 's efforts to protect the olive groves from Israeli settlers and the forces of the occupation.

Unfortunately the losses were not confined to Izzat. The Israelis left his land and went down to destroy another 120 olive trees belonging to Mohammed Ahmed Abu Sbeha who wasn't in the village at the time and came to his field when it was too late. The 120 olive trees were given to Mohammed through the Olive Tree Campaign in its 7th and 8th seasons and were sponsored by people from Japan, Netherlands, Norway, The UK and The USA.

*Note:*

Both Izzat and Mohammed have been part of JAI's Olive Tree Campaign which is called Keep Hope Alive. While Mohammed received olive trees, Izzat became a good example for other farmers because of his lifelong service to his land and his olive trees. Three years ago the Israeli Military came to Izzat's land with the Israeli Water Authority and destroyed part of his land to install water tubes through which Israel could deplete West Bank water for pumping into Israel. Izzat was prevented from having access to the water and was left with the destroyed part of his field which he has since tried to repair. Today he faces a similar act of destruction implemented not for the theft of water but because someone in Israel has decided that pine trees should replace his olive trees on his land!

*Suggested actions:*

- Write a letter to your countries representative in Tel Aviv, asking for a visit to the destroyed fields and affected farmers. Contacts to the farmers can be made available after contacting the Olive Tree Campaign at [olivetree@jai-pal.org](mailto:olivetree@jai-pal.org).
- Write a private and/ or public (through news papers) letter to the Israeli representatives in your country, sharing the story of the farmers and seeking explanation for what happened, and find out if there is a way to bring those responsible for the destruction to justice.
- Write a letter of support to the farmers to let them know they are not left on their own in watching their livelihoods being destroyed.
- Try to bring this story to light using your local newspapers, radio, TV stations or any other media tools to bring the story to light.
- Sponsor an olive tree or call on your friends and other people you know to sponsor olive trees to be planted in fields that suffer the same type of risks.

日本 YWCA

〒101-0062 千代田区神田駿河台 1-8-11 東京YWCA会館 302 号室  
TEL: 03-3292-6121 FAX:03-3292-6122 [office-japan@ywca.or.jp](mailto:office-japan@ywca.or.jp)